

10月9日 逍遙



すずの裏散策、  
のこころ

お店の前の歩道を左に出てトコトコ歩いていくと、程なく黎明館駐車場入口。そこからは、緩やかながら猫のワタシにはそれなりの坂道。右手には桜とツツジ、そして来月あたりの開花が楽しみな山茶花。左手には、酷暑の今夏も鐘の形の無数の小さな白い花を咲かせ続け、蜜を求めて集まるクロアゲハやミツバチ達の、疲れを知らない一瞬の生の輝きを観せてくれたアベリア。

目の前の黎明館の建物に突き当たると、右に曲がって、何はともあれ御楼門へと急ぐ人が多いみたいですが、ワタシは逆に左に曲がって、まずは黎明館の裏手の、城山の山裾でホッと一息・散歩空間を逍遙することにしています。

そこでは、背の低い猫のワタシでもアイコンタクトが取れる、穏やかな表情の田の神石像と、車の下とは一味違って、今を生きているワタシをちゃんと見られているような安心感の漂う江戸時代の古民家の床下が…そして城山の深い木立の間を伝ってくる、ひんやりとした秋色の風に震える紅葉と、城山から御池に注ぎ込む、葉陰の湧き水の途切れることのない微かな音…

次回「自らの意志で思い定めたからこそ、のこころ」

